

高度成長期	1962年	三八豪雪	鉄道・道路の物流・人流の途絶後に「除雪元年」と呼ばれる	現代につながる除雪体制の礎
	1964年	新潟地震	石油コンビナート火災、地震15分後に津波、液状化	<ul style="list-style-type: none"> 液状化研究推進の契機 地震保険に関する法律制定
	1967年	羽越水害	「災害弔慰金制度」の創設	「たいしたもん蛇まつり」にて語りつがれる（関川村）
成熟期	2004年	中越地震	山間過疎地の復興 「地域の存続」が主課題に 豪雪地帯で冬直前の災害 地震・豪雪複合災害が現実	<ul style="list-style-type: none"> 復興ビジョン「2つのシナリオ」 地域復興、復興デザインなど概念誕生。 地域復興支援員制度等の創設 地域おこし協力隊のモデルに その後の地方の大災害被災地に、人・知見を積極的に移転
	2006年	平成18年豪雪	全国で152名死亡 除雪に担い手不足が顕在化	<ul style="list-style-type: none"> 共助による除雪体制の整備が課題に 除雪の安全対策の推進の契機に
	2007年	中越沖地震	原発立地地域の災害対策	東日本大震災に教訓は活かしたか？
	2024年	能登半島地震	再び液状化	<ul style="list-style-type: none"> 中越の経験・知見は十分に伝わったか

2024年10月 中越地震20年

- 復興ビジョンで描かれた未来と、現実の今の状況は？
- 「防災立県」を標榜した新潟。現在の地域防災力はようになったか、防災産業は育ったか

2026年1月 平成18年豪雪20年

- 共助・除雪ボラなど人的支援はどうなった？除雪安全の水準は高まったと言えるか？
- ゲリラ豪雪による被害が各地で頻発する時代。新潟から発信すべきことは何か？

様々な災害を経験し、向き合ってきた新潟県から「血の通った防災と復興」を発信する契機としたい。

長岡技術科学大学が関わる出展の予定

No	出展件名	主催団体 / 協力団体	責任者	出展方法
1	雪と倒木のデータプラットフォーム	DPF協議会	三浦	ポスター展示
2	防災ワクチン一枚の写真WS	NUT地域防災実践研究C / 中越防災安全推進機構	上村	ワークショップ
3	電動アシスト運搬車	NUTメカトロニクス研究室 / 地域防災実践研究C	宮崎	屋外展示
4	ブレーカーキット & ガスメーター	NUT地域防災実践研究C / 東京ガスNW、北陸ガス、東電HD	吉澤	屋外展示
5	雪風君BIG	NUT雪氷工学研究室 / (株)SnowBiz	上村	屋外展示
6	新型コンセント	NUT地域防災実践研究C、先進エネルギー変換研究室	日下	ブース展示

その他出展の予定

No	出展件名	主催団体 / 協力団体	責任者	出展方法
1	雪かき道場 / YUBO	NPO中越防災フロンティア	田中	ブース展示
2	新潟が先導する 「命を守る雪の防災」	日本雪工学会 除雪安全行動研究委員会	諸橋	セッション

その他セッション登壇予定

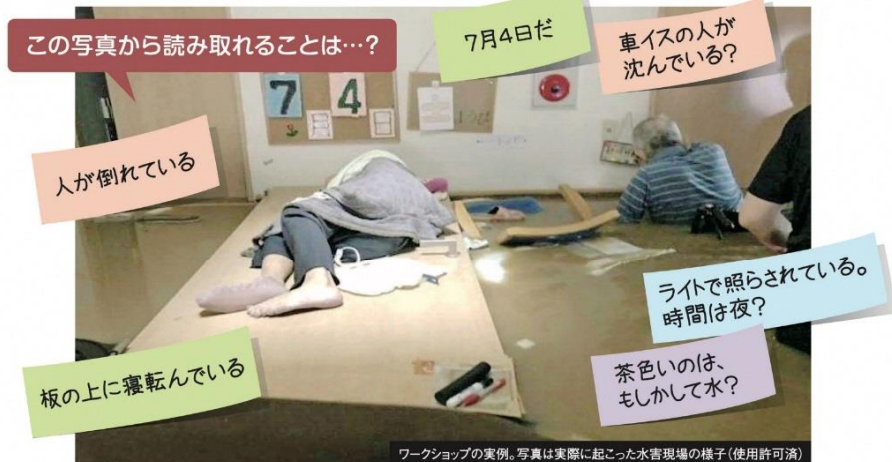
1	中越地震から復興した新潟が 次世代へ伝えたい教訓	新潟県	セッション
2	(仮)新潟県中越地震の教訓と 備えの重要性	日本損害保険協会	セッション
3	(仮)中越地震から学ぶ 能登の 復興と震災伝承	日本防災士機構	セッション

ワクチン接種のように、模擬体験があなたの災害対応力(免疫)を高める
防災ワクチン®シリーズ

「一枚の写真」ワークショップの手引き

「一枚の写真」ワークショップとは

一枚の写真、一分の映像、一本の記事などの限られた情報を手がかりに、何が起きたのかを参加者同士で推察し、読み解きます。取るべきではなかった対応、逆に取るべきであった対策は何だったのか…。現場の事情や心情も深く考察することで、いざという時に最善の判断で行動する力を養うプログラムです。



ワークショップの事例。写真は実際に起こった水害現場の様子(使用許可済)

- 3Step**
- Step 1 事象発生までのシナリオを読み解く・対策を考える
 - Step 2 登場人物を軸にした物語を記述する・対策を考える
 - Step 3 参加者に役を与え物語に登場させる・対策を考える

シナリオ分析で一枚の映像から読み取れる事項を付箋紙に書き出し、グループで共有する
⇒得られた事実から事故対策検討

ライフストーリー分析で危険行動に至った経緯や被災者心理に寄り添う

ロールプレイ分析で被害者に係る誰かになりきり、事故を防ぐためにできることはなかったか、真剣に考える(他人事にならない)



長岡技術科学大学 雪氷工学研究室
地域防災実践研究センター



参照: 東電HD(株)
TEPCO

「一枚の写真」ワークショップのコンセプト

あたえない

解説

- 情報の与えすぎがかえって不安をもたらす
- 情報は簡単に得られると勘違いする
- もともと人に備わっている「情報不足を補う力」を高める

おしえない

解説

- 「誰かが判断してくれるだろう」と依存体質になる
- 正しい判断が存在すると勘違いする
- 正解は無いが、最善策は決められる

誰かのせいにしてない

解説

- 自己責任論に収めると問題解決から遠ざかる例) 社会が悪い、大人が悪い、〇〇が悪い、等
- 犯人捜しより本質的な課題探しを優先する
- 課題解決に自分自身も関与できると自覚する

「一枚の写真」ワークショップの効果

このワークショップでは、未経験や想定外の災害にも対応することを目的に、以下2つの能力の向上と見える化を実現しています。

認知能力

災害対応に必要な
知識・技術力



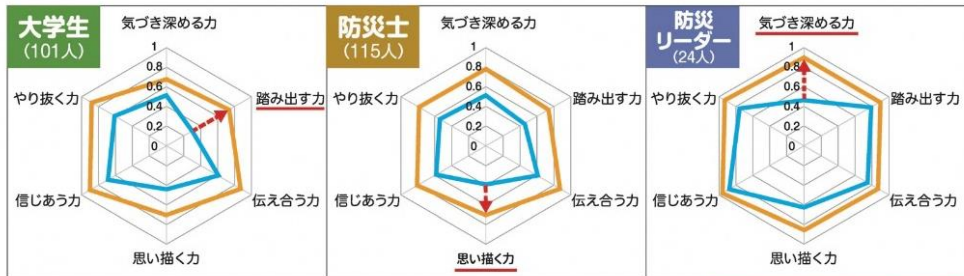
非認知能力

限られた情報の中で、その場に居合わせた人々と協力して最善策を定め、行動を起こす力



対象者別 非認知能力のWS前後の変化

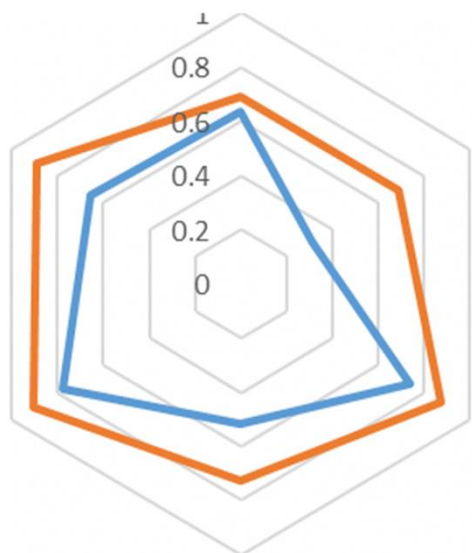
参加者による自己評価アンケートの結果、「気づきを深める力」「伝え合う力」「踏み出す力」「思い描く力」「信じ合う力」「やり抜く力」の全ての項目で明らかな向上が見られました。



→ 能力向上 — WS前 — WS後

防災ワクチン® 一枚の写真WS

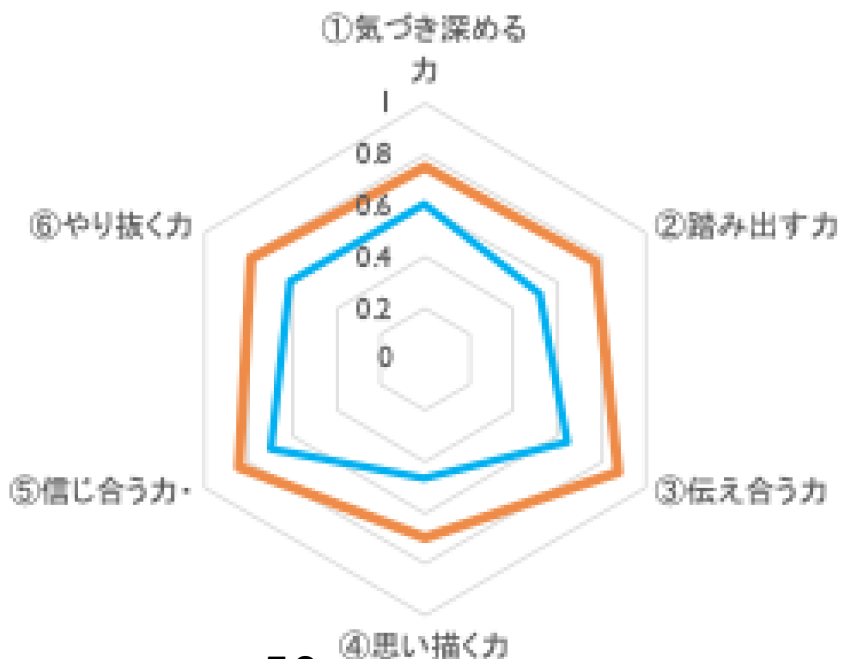
大学生



n=58/55

主に人文系低学年
防災とは関係なし

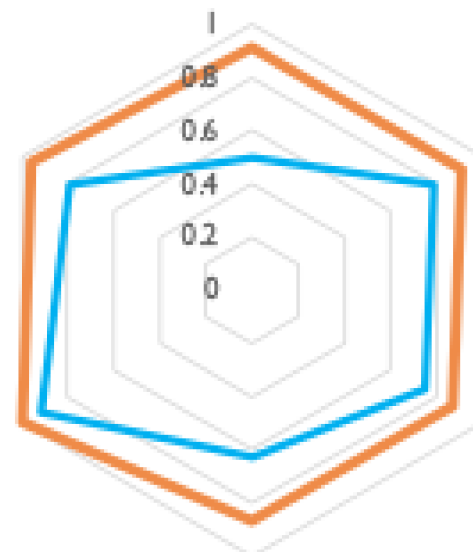
防災士研修



n=56

防災士資格取得を
目指す受講生

防災リーダー

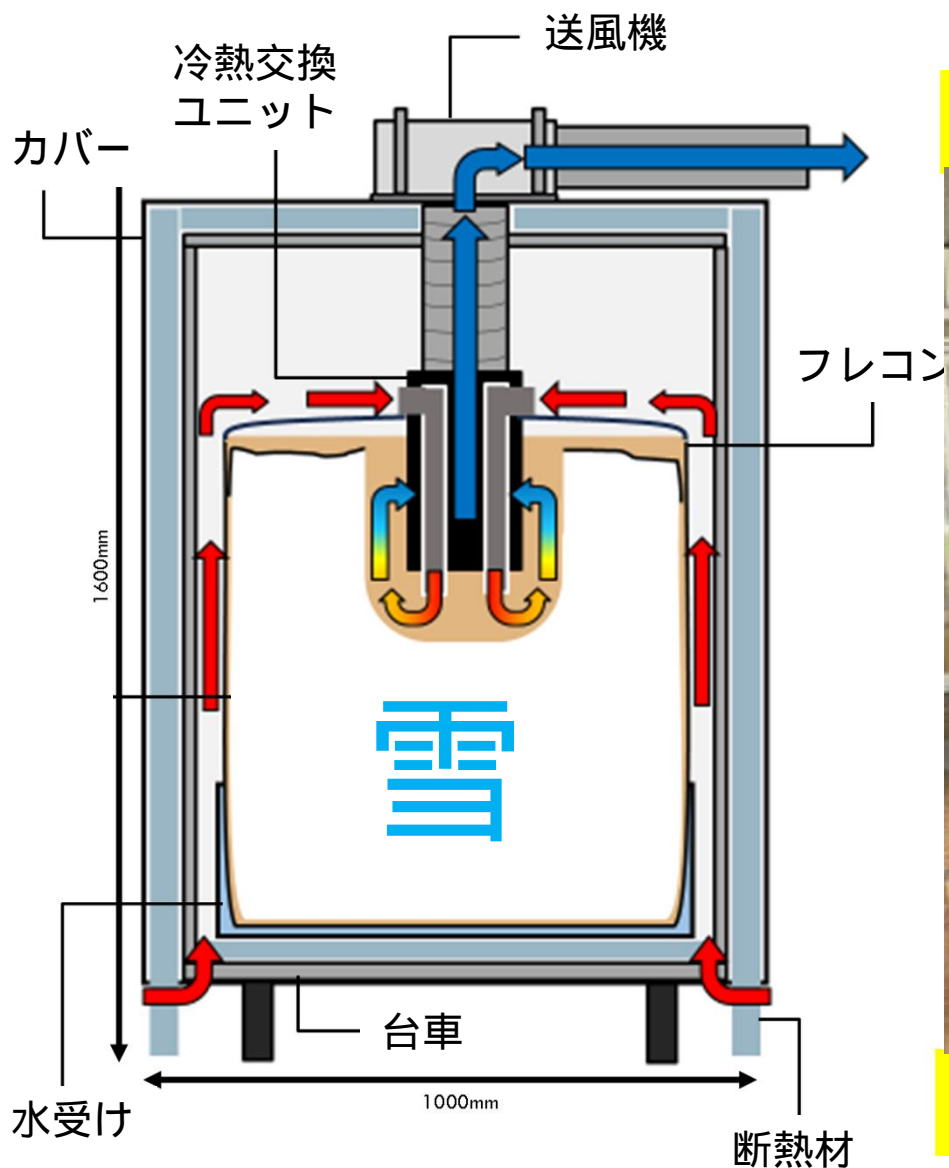


n=47

防災士資格を有し
豊富な活動経験

非認知能力 6 項目すべてがWS 前—と後—で向上

雪風君BIG - 雪で熱中症対策 -



移動できる雪冷房 = 熱中症対策に！



運動会、工事現場、鉄工所など

2023年8月10日山古志



2023年8月11日海老名



5:00AM



袋詰め作業



クールスポット

写真提供 Rina Ogura



雪風君組立て

新技術説明会
New Technology Presentation Meetings!